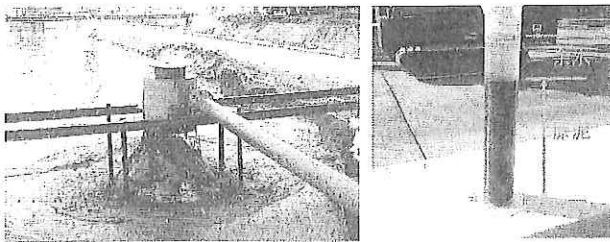


② 高濃度での浚渫が可能

真空発生装置による強い吸引力と特殊アタッチメントの併用により、施工含泥率40%~70%（シルト質土）という高濃度での吸引が可能。そのため、浚渫時の余水が少ないので陸上での余水処理設備等が軽減されるというメリットがあります。

シルト質土に適した工法ですが、レキ質土以外なら浚渫が可能です。



③ 環境負荷が少ない

吸引された汚泥は浚渫船に搭載されているレシーバータンクに吸引後、処理目的地まで管路圧送され、一度も浚渫泥が外部にさらされることが無いため、汚泥の飛散や悪臭の発生といった環境負荷となる要因がなく、非常に環境に配慮されたシステムです。

圧送に至っては、浚渫船単独で2,000mまで圧送が可能で、コンプレッサーを増設することで延長も可能です。

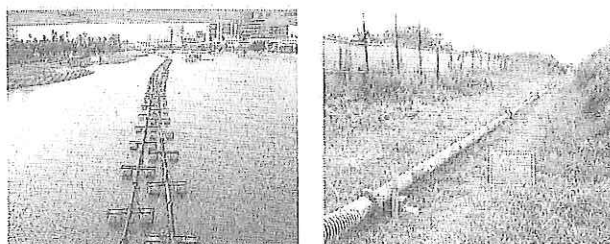
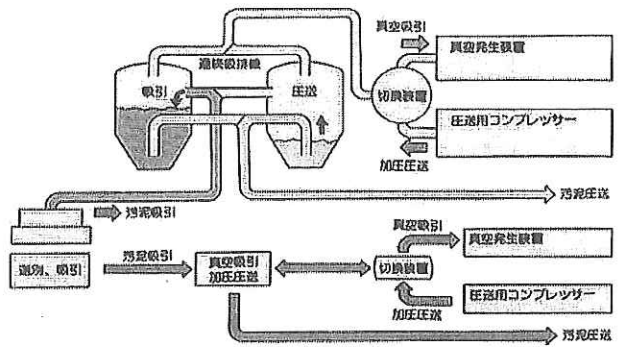


写真-6) 水上圧送管と陸上圧送管

④ 効率的な機構

本浚渫船の連続吸排システムはレシーバータンクを2基備えており、それぞれのレシーバータンクが交互に吸引・圧送を繰り返すため、連続的に浚渫作業が行える効率的な機構を備えています。



⑤ 優れた機動性

真空吸引圧送浚渫船はパーツ別にトラック輸送することが可能であり、現地で組立・解体が容易にできるため閉鎖性の水域でも対応できる優れた機動性を有しています。

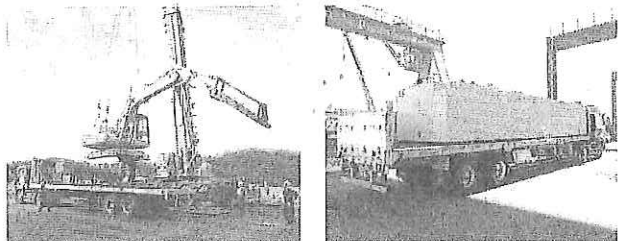


写真-7) 45t級クレーンを使用した組立・解体、トラックによる陸送

(4) アレンジ施工

この浚渫船は、パーツ別になっているため様々な現場に対応することが可能です。高さ制限がある場所や浚渫船を水上に浮かべずに浚渫するなど現場条件に合わせた施工が出来ます。

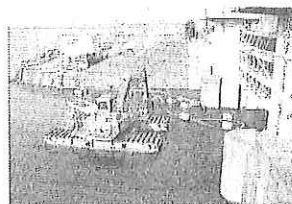


写真-8) 泥上掘削機とのコラボ

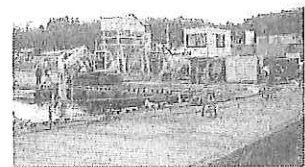


写真-9) 陸上からの浚渫作業

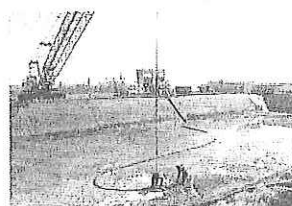


写真-10) 人力による浚渫作業

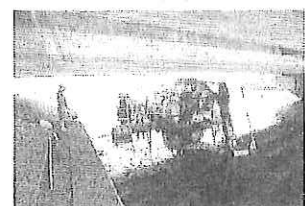


写真-11) 桁下2mでの浚渫作業